

QI ニュース Vol.4

平成 26 年 6 月 20 日発行

発行責任者 川原 順子

Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator Quality Indicator

みなさん、こんにちは。QI ニュース 1～3号では、医療の質全般のお話でした。4号以降は、医療の質向上を目指した院内の取り組みを、ご紹介していきます。第1回目は麻酔科の竹端先生です。

医療の質向上委員の竹端です。手術室での医療の質向上の取り組みをご紹介します。

安全に手術を行うことは、大変重要なことです。手術室で起こる事故は時に患者さんの命に関わります。事故の原因は、コミュニケーション不足、確認・準備不足、不明確な手順などさまざまです。事故を防ぎ、より安全に手術を行うためには、コミュニケーションを大切に、情報や問題点を共有していく必要があります。

安全な手術のために、世界保健機構（WHO）は「手術安全チェックリスト」の使用を勧めています。当院でもこの「手術安全チェックリスト」を2013年12月から導入しました。「麻酔導入前」「皮膚切開前」「患者の手術室退出前」の3つの場面で**全員が手をとめ**、チェックリストを用いて、安全確認を行います。チェックは各1分ほどで済み、負担は少なくなっています。

乳房温存術を行います。右側の手術です。



手術予定時間は3時間です

術者や麻酔医、看護師が個別に把握していた手順・合併症・器材といった情報を、同じ場で**声に出して**提供し合うことでコミュニケーションがよくなります。手術室内だけで

なく、放射線科や内視鏡室における治療にも、この「安全チェックリスト」は応用できるかもしれません。

実際の様子はインターネットでみることができます。医療ドラマ「ER」にも、チェックリストのおかげで難を逃れたシーンがでてきます。こちらもネットにアップされています。興味のある方はぜひご覧下さい。



手術室スタッフの声

「改めて自己紹介をすることで、チーム感や責任感を感じました」

「患者のアレルギーや抗凝固薬の有無など再確認できた」

「手術の流れや具体的な方法がわかり、落ち着いて手術の介助ができた」

「チームとしてコミュニケーションがよくなった気がした」

チェックリストを導入して情報を共有することで、チーム力と安全性の向上につながりました。認定看護師として、医療の質の向上を実感しています。

手術看護認定看護師 源通文恵

「安全な手術を実施するための基本指針10項目」と「WHO手術安全チェックリスト」は、別添の資料をご覧下さい。